

令和 7 年度第 1 回地域連携推進会議 議事録

1. 開催状況

事業所番号	0124601899			
事業所名	グループホーム3ねんBぐみ			
今回の会議の対象となる共同生活住居 ※複数の共同生活住居を設置している場合に記載	ホームEぐみ、ホームDぐみ			
開催日時	令和 8 年 3 月 6 日	金 曜日	13:30	～ 15:30
開催場所	ホームEぐみ	司会 代表：桑原由美子	記録 常務：伊丹千恵美	
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考（欠席理由等）
	利用者	3 名	0 名	
	利用者家族	0 名	2 名	1名体調不良、1名日程調整困難
	地域の関係者	1 名	0 名	明交町内会会長
	福祉に知見のある人	1 名	0 名	帯広市社会福祉協議会成年後見センターみまもーる所長
	経営に知見のある人	1 名	0 名	さくら税理士法人当社顧問税理士
	事業所関係者	2 名	1 名	就労継続支援B型事業所管理者、訪問看護看護師長（緊急事態で欠席）
	行政・市役所	2 名	0 名	帯広市障害福祉課
事務局（職員等）	7 名	1 名	役員3名、事務課長、管理者、サビ管、看護師（欠席：看護師）	

2. 議題内容

- ・地域との連携性、連携強化（災害時含む）
- ・近隣住民から苦情はないか
- ・町内会等への行事参加
- ・サービスの透明性、質の確保、提供するサービスについて
- ・個別支援計画書に基づく支援体制、モニタリングで評価
- ・入居利用者の健康管理支援について
- ・身よりがない方への身元保証、成年後見制度の利用
- ・グループホームの経営、運営状況について
- ・虐待防止、苦情解決への取り組み
- ・入居利用者の障がい福祉サービス利用状況
- ・入居利用者からの要望や意見など

3. 構成員からの質問、要望、感想等

【利用者】

- ・会議は緊張した。でもみんなと話げできたので嬉しかった。
- ・一般就労目指している。いつかは一人暮らしもしてみたい。
- ・65歳になったら介護保険に変更？←ホームでの生活に変更はありません。

※支援者から

生活と一般就労の両立が大切だが想像以上に大変で難しいのでしっかり訓練を受けて頑張ってください。

【地域の関係者】

- ・以前この町内会では障がい者のグループホームに対するイメージは良くなかった。
- ・このホームは24時間で夜間も職員が配置されていることを知ることができて安心した。
- ・町内会も高齢化している。ぜひ町内のイベントや行事などに参加して欲しい。交流することでグループホームに対する印象ももっと良くなると思うし、障がい者に対する理解も得ることができる。

【福祉に知見のある人】

- ・成年後見制度も制度が変化してきている。法改正があり「一生後見」から「自立後見」へと変遷してきている。後見人への報酬も高く利用者にとっては負担が大きかったが、使いやすいように法改正できるような動きに変わってきている。市民後見人も増え、緊急対応もしているため市民同士また町内会の協力も必要と感じている。まさにこのような連携会議がGHでなされることに、これからの連携やつながりに大きな期待を持っている。この会議に参加して障がい者のGHを「知る」ことができ「知る」ことへの必要性を感じた。

【経営に知見のある人】

- ・GH立ち上げの当初は経営的にも運営的にも大丈夫かなどの心配があったが、国のバックアップなどもあり現状は安定した運営や経営状態。少人数にこだわっての運営方針・家庭的な温かさがあり入居している利用者様は安心して生活できると思った。

【就労支援事業所】

- ・3ねんBぐみのGHに入居されている利用者様数名が当事業所を利用されている。GHとは連携が取れており情報共有しやすい関係性である。生活が安定していないと就労に影響があるため連携性の重要性を切に感じている。

【行政・市役所】

- ・当GHの利用者負担の料金について料金体制が妥当かどうかのGH側の問いについて
←市で数多くのGHの料金体系を把握はしていないが国からの家賃助成が1万円ある。
どの事業所も家賃は3万円前後。光熱水費等については妥当な金額と思われる。
- ・GH側：食事は「おいしいごはん」を常に追求し徴収している食費の範囲内で良いものを提供している。物価高だがやりくりしている。行事食などもこだわっており入居者の皆様からは好評である。
- ・利用者様へ➡GHでの生活をこれからも体に気を付けて継続して欲しい。助けてほしい時に「助けて」と言えるようにしてほしい。
- ・障害福祉課は市の相談窓口になっているので気軽にいつでも相談してください。

【質疑応答など】

Q：利用者さんへ➡好きなメニューは何ですか？

A：カレーライス、からあげ、海鮮丼

Q：災害対応などGHではどのようにしているのか？

A：備蓄など必要最低限の物資は各ホーム災害用に持ち出し可能なリュックに入れてある。避難訓練を毎年実施、事業継続計画（BCP）は作成済なので再確認や非常災害対策計画、避難確保計画等適時職員間で共有を図れるように対応。
町内や地域の見守りや声掛け、助け合いがあると安心。今後も連携できるようにしていきたい。

Q：ヒヤリハット、事故報告などの共有はどのようにしているのか？

A：報告等は書面で共有。虐待防止委員会や虐待防止研修会などでも共有を図っている。
事故防止のためにも今後は年に1回以上は「事故防止対策委員会」など開催し、検証の機会を設けたい。

4. その他

※次回開催については、令和8年度の秋ごろに開催したい。